

をいたま市図書館

高校生のための
SDGs
ブックリスト



SDGs（エス・ディー・ジーズ：Sustainable Development Goals）とは、「持続可能な開発目標」を意味し、「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。こう聞くと、難しいことのように感じるかもしれません。しかし、私たち一人ひとりの暮らしにとっても関係しています。高校生のみなさんの学習も、様々な活動と結びついて、豊かで安心して暮らせる社会の実現につながります。

ここに取り上げた本から、高校生のみなさんに SDGs を身近に感じていただき、できるところから、持続可能な社会の発展に向けて行動するきっかけとなったらうれしいです！

さあ、読んでみよう！



『むこう岸』

安田夏菜著 講談社 2018年

有名進学校で落ちこぼれ、挫折した和真。心を病む母と幼い妹と「生活保護」で暮らす樹希。「カフェ・居場所」で出会った二人は、偏見や価値観の違いから互いを理解することができません。全く違う悩みを抱えた二人ですが、相手の世界を知ることによって、やがて樹希は自分に必要な法や人の存在を知り、和真は自分自身の本当の気持ちに気付いていきます。最悪な状況をどう打破していくのか？未来への希望を感じる物語です。



『コンビニ弁当 16万キロの旅』

千葉保監修 コンビニ弁当探偵団文 高橋由為子絵
太郎次郎社エディタス 2005年

日頃から馴染みのあるコンビニのお弁当。工場ではどのように作られ、お店ではどのように仕入れているか、あなたは知っていますか。この本では、コンビニの幕の内弁当という身近な物から食や流通について考えていきます。またその先にある世界規模の問題にも目を向けて、フード・マイレージや、日本で食べる食材を生産するために生産国で必要な水の量（バーチャル・ウォーター）についても考えます。本書は2005年に出版されましたが、今なお新鮮な発見があります。最新のデータを自分で調べながら、当時から今にかけての変化を比較してみるのもよいかもしれません。

3 すべての人に 健康と福祉を



『「国境なき医師団」を見に行く』 いとうせいこう著 講談社 2017年

「国境なき医師団 (MSF)」という団体を知っていますか？紛争国や天災にあった地域での緊急医療援助活動を展開しているほか、貧困に苦しむ国や、性暴力が頻発する地域でも活動を行っている団体です。筆者は現地へ入り、状況を見聞きし MSF スタッフたちと話し、ケアされる側の人とも話し考えます。健康は医療施設や技術の差だけで損なわれるわけではなく、病気や予防についての教育と支援が不可欠なのです。

4 質の高い教育を みんなに



『ヒマラヤに学校をつくる』 吉岡大祐著 旬報社 2018年

鍼灸師の著者が知人の言葉をきっかけにネパールへ渡ります。ネパールは人々がのんびりしておおらか。しかし同時に、差別的な階級制や激しい女性蔑視、厳しい貧困が存在しました。鍼灸治療を通じてその状況を目の当たりにした著者は、貧しい子どもたちへの教育支援活動を始め、いつしか学校の開校を目指すようになります。最初は何もありませんでしたが、少しずつ協力の輪が広がり、学校設立は現実のものに。熱意と努力で、子どもたちを救える場所ができたのです。

5 ジェンダー平等を 実現しよう



『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』 佐藤文香監修 一橋大学社会学部佐藤文香ゼミ生一同著 明石書店 2019年

女子高って必要？ 女性専用車両って男性差別では？こんな身近な疑問から、LGBT やフェミニズム・性暴力についてもっと知りたい、といったものまでいろいろな声に大学生が答えます！

回答はホップ・ステップ・ジャンプの3段階となっていて、自分のレベルに合わせて読み進めることができます。あなたも、ジェンダーやセクシュアリティによってどのように行動が制限されているのか、どうしたらそこから自由になれるのか、一緒に考えてみませんか？

6 安全な水とトイレ を世界中に



『図解でわかる！4歳からの水と環境問題』

インフォビジュアル研究所著 太田出版 2020年

地球は水の惑星とも呼ばれ、約14億km³の水があるといわれています。けれど、地上のあらゆる生物が生きるために使える水は全体の0.01%、約0.001億km³しかありません。このため地球上の多くの場所で水の使用に制限がかかっています。水問題は世界の国々が協力し合わなければ解決できない、地球全体に関わる問題なのです。地球上のすべての人々が安全な水を確保できるようになるために、水をめぐる世界の状況と原因、問題点について解説しています。

7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに



『ローラン島のエコ・チャレンジ』

ニールセン北村朋子著 野草社 2012年

かつては巨額の赤字と高い失業率に苦しむお荷物地方自治体だったローラン島でしたが、グリーン・エネルギー生産の中心地となることで先進環境自治体へ変化しました。そこには住民や自治体の自然エネルギー活用への取り組みや意識の変化がありました。限りある資源を上手に使いながら、持続可能な社会を作っていく一つのヒントがここにあります。

8 働きがいも 経済成長も



『田舎のパン屋が見つけた「腐る経済」』

渡邊格著 講談社 2017年

山奥のパン屋タルマーリの経営理念は、「利潤」を出さないこと。店主の渡邊さんは、「利潤」を追求し、大量生産を実現する「腐らないパン」は、食の値を下げ、職をも安くすると考えます。店は週3日お休みを取り、天然の菌を使った手作りのパンは高価格です。その土地のものを使い、食べる人にも働く人にも優しい、地域通貨のようなパンを作る！小さくても本当のことをするパン屋タルマーリの挑戦は、新しい働き方を見せてくれます。

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



『2030年の世界地図帳』

落合陽一著 SBクリエイティブ 2019年

スマートフォンのように時代の変革をうながすテクノロジーとして、いま注目されている技術に「AI」、「5G」、「量子コンピューティング」などがあります。これらの最先端技術はSDGsで掲げる「貧困」、「教育」、「環境問題」などの課題にどのような変革をうながしていけるのでしょうか。世界各地で起こりつつある変化を読み解くための地図帳です。

『オール★アメリカン★ボーイズ』

ジェイソン・レノルズ著 ブレンダン・カイリー著 中野怜奈訳 偕成社 2020年

同じ高校に通う、黒人のラシャドと白人のクイン。ラシャドは買い物に行った店で万引きを疑われ、白人の警官から激しい暴行を受けて大怪我をしました。クインは偶然その現場を目撃しますが、暴行を加えた警官が友達の兄であることに気付き、強く葛藤します。やがてこの事件の動画が拡散され、学校や地域全体を巻き込み、デモへと発展していくことになるのですが……。

様々な立場・視点から人種差別について見つめ、周囲と連帯することで社会を変えていく力を実感できる物語です。

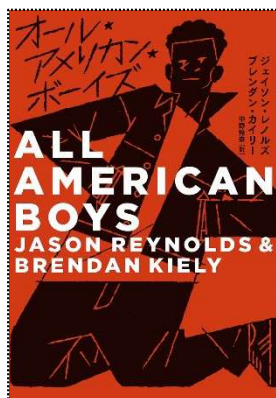
『ピーターラビットのふるさとをまもりたい』

リンダ・エロビッツ・マーシャル文 イラリア・アービナティ絵 おびかゆうこ訳 廣済堂あかつき 2020年

ピーターラビットの作者ビアトリクス・ポターは、女性の社会参加がまだ十分に認められていなかったイギリス社会を生きました。彼女はどのようにして菌類の研究や絵本の出版、イギリスの湖水地方を守るための取組といった類まれな業績を残したのでしょうか。

世界中で愛されている作品の舞台を守った彼女の行動は、後世に残すべき自然遺産を守るために、一人の人間ができることの可能性とヒントを与えてくれます。

10 人や国の不平等をなくそう



11 住み続けられるまちづくりを



12 つくる責任
つかう責任



『プラスチック・フリー生活』

シャンタル・プラモンドン著 ジェイ・シンハ 著 服部雄一郎訳 NHK 出版 2019 年

プラスチックのない生活を想像したことがありますか？世界的に注目を集めているプラスチックごみ問題。実は環境だけでなく、私たちの健康にも深く関わっています。この本では、プラスチックの種類や、危険性、代替品を使った暮らし方について紹介しています。今の生活からプラスチックを完全に排除することは難しいですが、「これならできそう」ということから、気軽に「プラスチック・フリー」を実践してみましょう。

13 気候変動に
具体的な対策を



『地球に住めなくなる日』

デイビッド・ウォレス・ウェルズ著 藤井留美訳 NHK 出版 2020 年

「わずか75年で破滅寸前となった地球」。とても衝撃的な言葉ではじまる本書は、気候変動がもたらす影響について、熱波、飢餓、海面上昇、水不足、感染症などの危機的状況を、すでに世界各地で発生している事象をもとに紹介しています。ゲリラ豪雨や熱中症など気候変動による日常の変化が身近に感じられるなかで、私たちの未来への警告の書となっています。

14 海の豊かさを
守ろう



『人の心に木を植える』

畠山重篤著 スギヤマカナヨ絵 講談社 2018 年

海の栄養がどこから運ばれてくるか知っていますか？それは地上の森からです。気仙沼のカキ職人である畠山重篤さんたちが「森は海の恋人」を合言葉に植林活動を始めてから30年以上が経ちました。その間に東日本大震災が発生し、大津波によって打撃を受けた海ですが、ほどなくして魚たちが戻ってきます。それは川や山の自然を大切に、環境を整えてきた人の優しい心があったから。

この本は海と森そして人の循環と再生の物語です。

15

陸の豊かさも
守ろう

『沈黙の春』

レイチェル・カーソン著 青樹築一訳 新潮社

2001年

虫を駆除するために人間は殺虫剤を撒布するようになりました。しかしその毒によって、あるいは虫がいなくなったことによる生態系の崩壊によって、他の生物たちも消えてしまいます。また、殺虫剤をはじめとする化学薬品は、知らず知らずのうちに人体に蓄積され悪影響を及ぼします。春になっても鳥は鳴かず草木は萌えず、自然は沈黙している—このような寓話が現実になる—。人間が発明した化学薬品が原因で、地球の生物が危機に陥ることを警告した名著です。

16

平和と公正を
すべての人に

『瓶に入れた手紙』

ヴァレリー・ゼナッティ作 伏見操訳 文研出版

2019年

テロにおびえるイスラエル人と自由のないパレスチナ人。イスラエルの少女タルは、平和への願いを込めた手紙を瓶に入れて海に投げることを思いつきます。パレスチナの誰かに届くように。やがて、タルのもとにガザマンと名乗る人物から返事が送られてきて、メールによる交流が始まります。二人の境遇の違いや日常がリアルに描かれ、パレスチナ問題への理解が深まります。

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

『なんにもないけどやってみた』

栗山さやか著 岩波書店 2011年

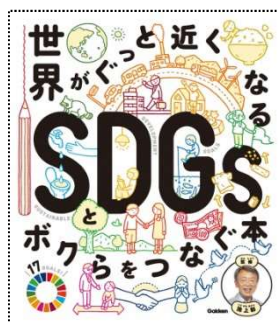
渋谷の元ショップ店員による、アフリカの医療施設でのボランティアの記録。ギャルと呼ばれる容姿で働いていた著者は、20代で親友を病気で亡くし、それから人生の残り時間の使い方を考えるようになります。海外を放浪した後、エチオピアの施設でボランティアを始めて目にしたのは、何の罪もない若い女性たちがHIVなどの病気に侵され、十分な治療を受けられずに亡くなっていく現実でした。現地の信じられないほどの惨状と、献身的に奉仕する著者の姿に胸を打ちます。



SDGs 全般

『世界がぐっと近くなる SDGs とボクらをつなぐ本』

池上彰監修 学研プラス 2021 年



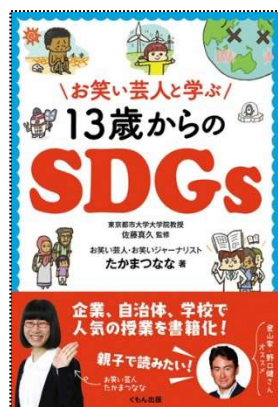
世界各国で進められている SDGs。国や企業が取り組むべき目標と思われがちですが、私たち一人ひとりにもできることがあります。それは「マイボトルを持ち歩く」「シャワーを浴びる時間を 1 分短くする」など、普段の生活を少し変えること。

この本は、そんな身近に取り組める SDGs から世界で起こっている問題を考え、遠い国での出来事を私たちの問題として考えていく本です。

ジャーナリストとして活躍する池上彰さん監修のもと、SDGs をわかりやすく、ユーモアたっぷりに解説しています。

『お笑い芸人と学ぶ 13 歳からの SDGs』

たかまつなな著 佐藤真久監修 くもん出版 2020 年



夢の国のあの城が水没？ 寿司屋からマグロが消える？ そんな驚くような問題提起から、この本は始まっています。著者は、お笑い芸人のたかまつななさん。実は東大大学院情報学環教育部卒で、お笑いジャーナリストとしても活躍中。

SDGs の考え方は、“持続可能な解決”であること。SDGs の考え方から 17 の目標、今日からできるアクション、ニッポンの課題まで、わかりやすく解説しています。明るい未来のために行動したくなる入門書です。

『コーヒーで読み解く SDGs』

José・川島良彰著 池本幸生著 山下加夏著 ポプラ社 2021 年



一杯の美味しいコーヒーから SDGs を味わってみませんか？

あなたが普段口にするコーヒーを将来の世代も飲み続けるために、今、何ができるのでしょうか。それを知るためには遠く離れた産地で何が起きているのか、働く人の環境や土地の歴史・気候変動による影響など多くを学び、そして、それを自分の行動に活かすことが重要です。

「持続可能」な「サステナブルコーヒー」を探す旅の第一歩を踏み出しましょう！

編集・発行 さいたま市立中央図書館 令和 6 年 4 月

さいたま市立中央図書館 さいたま市浦和区東高砂町 1-1

電話 (048) 871-2100 FAX (048) 884-5500